【掲示板の言葉】	宗教科通信	令和 5 年 12 月
一蓮托生	聞　思 Mon-Shi	東大谷高等学校 宗教科発行 （通算 21 号）

報恩講（11 月 28 日 火曜日 講堂で実施）の感想文から

講師：やなせ　なな 師

（浄土真宗本願寺派 教恩寺[奈良県]住職・シンガーソングライター）

＜1 年生＞

○やなせ先生のお話を聞いて、心が軽くなった気がしました。私も一時期は「何のために生きているのだろう」と考えて悩んだことがあったので、やなせ先生の苦悩が心にしみました。（中略）現在は、おかげで前向きに日々を過ごすことができています。お話の中にもあったように、私たちは肉体的にも、精神的にも誰かに何かに支えてもらって生きています。私の両親に感謝を伝えると共に、私を前向きにしてくれた大切な人に手紙を書いてみようと思います。SNS で伝えることも可能ですが、やはり自分の手で書いた文字で伝えたいと思います。

○卒業まではまだもうしばらくあるけれど、考えるとすでに寂しいです。三年間、一緒に過ごしていたメンバーと別れてしまうことは、今は想像できないけれど、一日一日、大切に、最後まで、出会いを、つながりを大切にしながら、卒業を迎えることができればと思いました。もちろん卒業した後も、東大谷でできたつながりを大切にします。これからもつながりに感謝していければと思いました。

○お話しを聞く前までは、私はネガティブで不幸者だとずっと思っていたのですが、五体満足で、健康に毎日学校へ行けている。また、親とも仲良くて、生活に困ることもなく、さらに、仲良い友達もいる。なのに、ちょっとしたことで落ち込んでいる自分が情けないと感じました。自分が多くの存在に支えられていることに気づけると、どこか心が安心しました。

○お話の中でも特に深く考えたのは、「皆の辛いことを私は請け負ってあげることはできません。」「陰でこっそり泣いている先生だっているよ。」という言葉だ。確かに当たり前の様な内容だったが、私は考えたこともなかった。先生も人で、人は人の辛いことを請け負えない。私は、大切なことさえも当たり前だと言って考えていなかったことに気づかされた。

○自分も、理不尽なことをたくさん言われ、傷つくと思いますが、そのことに負けないように夢を叶えてやろうという気持ちに気づけました。辛いことがあったのに、今笑顔でいられるやなせさんの強さと優しさにはとても暖かいものを感じました。

○私自身も死にたいとまではいかないけれども、辛いなと思ったこともありました。今日のお話を聞いて考えが変わりました。それぞれの人がそれぞれの悩みや苦しみを抱えながら生きている。その気持ちは誰にも代わってあげることのできないこと。しかし、寄り添うことはできる。

＜2年生＞

○「いのちは大きな古い時計の振り子のようなもの」だと聞いて、生きることに意味を見出すことができなくても、常に身体は生きたがっていて、死に対する意識とは真逆の方向に向かって歩きつづけているのだと気づきました。だから、どんなに辛くても、生に意味を見出せなくとも、心臓や身体は生きて、動きつづけてくれているから、勇気と覚悟をもって生きて行けば、きっと報われる日が来るのだろうと思いました。

○法話で一番心に響いた言葉は、「綺麗な制服を着ることができて、学校に行けているのは、全部誰かのおかげ。当たり前のことではない。」という言葉です。また、「自分の意思や自分だけの力で生きていくことはできないから、誰かに生かされている。」という言葉も心に響きました。私はすぐに美味しい御飯を食べたり、温かいお風呂に入れたり、なに不自由なく生活できることが当たり前だと思ってしまい、両親に感謝の気持ちを伝えることができなくて喧嘩になることがよくあります。でも、お話を聞いてから考えが変わりました。今不自由無く生活できているのは全て両親や家族のおかげで、将来、私が苦労しないように大切に、大切に育ててくれているおかげだと気づくことができました。

○やなせ先生のお話を聞いて、今日帰宅したら、まずは丈夫な身体に育ててくれた両親に感謝の気持ちを伝えようと思いました。あらためて自分の身体を大切にしないといけないなと思いました。

○この世にいる人達は皆、どこかの知らない誰かと誰かが出会ったから存在していて、決して独り善がりになってはいけないし、周りの人達に少しでも感謝を伝えるべきだなと思いました。また、自分が昨年より少しでも成長でき、前に進んでいたら良いなと思いました。

○「辛いときも一人じゃない。味方がいる。」などの言葉は、元気な人には届くかもしれな

いけど、本当に辛い思いをしている人には言葉だけでは伝わらないのだろうなと思いました。だからこそ、身近にいる私も含めて、言葉だけではなく行動で、態度で伝えていかねば伝わらないと改めて思いました。

＜3 年生＞

〇受験を目前にしたことで、私は「ただ生きる」ことの難しさを意識するようになった。意外と考えなくてはいけないことが多く、毎日何かに追われるような生活を送っている気がする。去年もこれほど忙しい時期はあったはずだが、「生きるのって大変だな」と感じることは無かった。それは、周囲の人が代わりにやってくれていたからだろうと思う。自分で行わなくてはならないことが増え、自立を求められて初めてそう感じた。本当に親に感謝したいと思う。何より親の凄いと思うところは、親も人であり、天才ではないことに気づいた。悩みは、自分と同じくらいあるし、しなければならないことは自分より多い。だが、そんな素振りは一切見せず、自分のことまで手助けしてくれる。自分の子どものためにそこまでやってのける親は本当に凄いし、本当に尊敬している。今日は、とても有難いことに気づかせてもらえた縁に感謝して過ごしていきたい。

〇共命鳥の話を初めて聴いた。このお話から、人というのは一人では生きられない存在であり、何かしら、どこかで人に支えてもらって生きていると感じた。周りにいる友達、先生親、先輩、後輩などは当たり前の存在ではない。日頃から感謝の気持ちを持ち、関わっていきたい。（中略）やなせ先生から、本当に人生というのはいつ何が起こるのか分からないと改めて感じた。もしかしたら、明日死ぬかもしれない。今、急に倒れてしまうかもしれない。人は、「生」と「死」を一つとして必死に生きていると感じた。今あるこの時を大切にし、いつかは「死」を迎える存在として「生」が終わるその時まで笑って過ごしたい。いい人生だったな。幸せだったな。と思える人生を過ごしていきたい。（中略）人生ということに「正解」はなく、悩みが消えることもないから、たくさん悩んで自分なりの「正解」を導いていきたいと思った。

〇お話を聴いて、とても親近感を感じました。辛いことがあったとき、周りが見えなくなってまるで自分だけが不幸なような気持ちになってしまうことは、誰にでもあることなのだと知りました。やなせ先生のお話は、本人の実体験から仏教と向き合われていたのでとても身近に感じました。どんなに辛くてもあきらめない姿勢や、「やりたい」と思ったことは必ず実現させるんだという強い意志を、私も見習ってこれからを生きていきたいと強く感じさせてもらいました。（中略）最後に聴かせていただいた曲も、とても優しい声と歌詞で心が洗われたように感じました。私自身はまだまだ自分勝手で他人を思いやれる心は少ないですが、今日のこのお話を胸にとどめて、もっと寛容な人間になりたいと思いました。やなせ先生の周りに大切なことに気づかせてくれる方がいたように、私の周りにもそのような方と縁がありますように、人とのつながりを大切にし、私自身も成長していきたいです。

〇今回、たくさんの大切なことを学ばせていただきました。特に印象に残ったのは、「苦しみや悲しみは自分一人だけが抱えているのではない。」ということです。今日、やなせ先生は今まで自分が経験して来られた苦しみや悲しみを通してお話してくださいました。

（中略）私もやなせ先生と似たような気持ちになったことを思い出しました。それは、高校受験の時です。私は、第一志望の受験に失敗しました。当時は、多くの勉強時間を過ごし、合格する自信もあったのです。すごく悔しかったです。また、同じ中学校から受験していた生徒は私以外全員合格していたことを後から知って、余計に悔しかったし、辛かったです。合格発表から数日間は、なんで私だけがこんな辛い思いをしないといけないんだろうとずっと悩んでいました。しかし、今日のお話を聞いて、私以外もみんなそれぞれ苦しみや悲しみを抱えて生きているのだから、思いつめなくても大丈夫だよと当時の私に言ってあげたいです。これからの人生も挫折することもあると思います。しかし、その時には今日のお話を思い出して、「大丈夫。一人じゃない。」と心の中で自分を支えて、乗り越えていきたいと思います。

○ 私は、今日の御講話を聞いて、多くのことを考え直すことができました。その中でも心に残っている言葉は、「いのちは大きくみると繋がっている」という言葉です。自分が何かに悲しんでいたり、苦しいことがあるとき、「何で自分だけ」と思いがちになってしまうけど、よく見ると周りの人たちも様々なことで苦しんでいたり、心の奥では、誰にも話すことができないような悩みや悲しみを抱えているのだと思いました。その悲しみや苦しみを解消することはできないけれど、寄り添うことはできると改めて思いました。今こうして生きることができているのは、自分一人の力ではなく、家族や友達、先生、その他にもたくさんの人が支えてくれていて、力を貸してくれているおかげだと今一度考え直すことができ、すべてのことに「ありがとう」という思いが込み上げてきました。

○私は、今までに大きな病気をしたことも、人生が変わるような決断をしたことも、大きな夢をもってその夢に向かって一生懸命になったこともありません。今日のお話を聞くまでは、もし自分が大きな壁に立ち向かわなければならなくなった時には、妥協したり、苦しみから逃げ出す方法だけを探していたと思います。しかし、今日のやなせさんのお話を聞いて、力強く生きるための勇気をもらいました。どんなに大変なことが起きても、苦しいことがあっても生きてゆこうと思えるようになりました。ありがとうございました。

【真宗大谷派 難波別院（南御堂）の御正忌報恩講 学生感話】

○大谷学園発祥の地である真宗大谷派難波別院（南御堂）では、10 月 25 日～28 日までの三昼夜にわたり報恩講が勤修されました。26 日の初日中前には「学生感話」として、本校の生徒会長 森 実可さんが来院し感話を行いました。

森さんは、堂々とした語り口で、谷川俊太郎作詞の『今年』という詩を引用しながら、「今ここにいることのご縁に触れ、現状を節に受けとめ、これからどのように生きていくのかを大切にしたい。」と語り、参拝者から大きな拍手が送られました。